

シェイクスピア・フローラ（Ⅲ）

金 城 盛 紀

Summary

Shakespeare's Flora (Ⅲ)

Seiki Kinjo

This is the third and final instalment of the survey dealing with all the plants mentioned by Shakespeare. A list of plants alluded to by Shakespeare, with their names (Shakespearean, current English, Japanese, and scientific) and all specific references to them in the canon, is provided. This study is expected to be published in book form with illustrations.

本稿は「シェイクスピア・フローラ（Ⅱ）」(第41巻第2号)に続くもので、これをもってシェイクスピアに現れる植物についてのコメントを終えることにする。

111 ニンニク GARLIC

英名 Garlic

和名 ニンニク (葫)

学名 *Allium sativum*

ユリ科ネギ属の多年草。臭気のために嫌われながらも、古代エジプト、ローマの昔から強壮食品として人気がある。

Lucio He would mouth with a beggar though she smelt brown
bread and garlic.

Measure for Measure, 3. 2. 184

ルーシオ 公爵は黒パンとニンニクの臭いがぶんぶんする乞食女にだってキスを
しますぜ。

『尺には尺を』

軽薄なルーシオは公爵の陰口をぺらぺら喋るが、聞き手は変装している当の公爵。

112 パセリ PARSLEY

英名 Parsley

和名 パセリ, オランダゼリ (芹)

学名 *Petroselinum crispum*

セリ科の二年草野菜。古代ギリシア・ローマ時代に香辛料や毒消しとして用いられているが、イギリスには15世紀中ごろ導入された。まつわる俗信も多く、その種子に養毛効果があるとするのも16世紀から伝わっている。

Biondello I knew a wench married in an afternoon as she
went to the garden for parsley to stuff a rabbit.

The Taming of the Shrew, 4. 4. 101

ビオンデロ 兎料理のつめものに使うパセリを摘みに菜園へ行って、その日の昼
過ぎには結婚してしまった娘っ子を知っています。

『じゃじゃ馬ならし』

性急な結婚を皮肉ったせりふだが、パセリにあると信じられていた催淫作用も意識しての皮肉か。

113 ハナタネツケバナ LADY-SMOCK

英名 Lady's Smock, Cuckoo Flower, Meadow Cress

和名 ハナタネツケバナ（花種漬け花）

学名 *Cardamine pratensis*

アブラナ科タネツケバナ属の多年草。カッコウが鳴きだすころ、牧場や森に多く咲く。花の色は薄紫や薄桃だが、遠目には白くみえる。

Spring When daisies pied, and violets blue,
And lady-smocks all silver-white,
And cuckoo-buds of yellow hue
Do paint the meadows with delight. . . .
Love's Labor's Lost, 5. 2. 895

春 まだらなヒナギク、青いスマレ
白銀色のハナタネツケバナに
黄金色のキンボウゲが
牧場をあやに彩るとき...。

『恋の骨折損』

シェイクスピア・カントリーの牧場の春。万物よみがえる春、カッコウも鳴きですが、その鳴き声は寝とられ亭主をあざける歌。大自然の回春は、結婚という制度に秩序化された男女の関係を原始の自然の状態に帰す衝動をも促す、ということだろうか。この花は、狂乱したリア王の花冠ともなる。

114 ハナハッカ MARJORUM

英名 Marjoram, Common Marjoram, Wild Marjoram

和名 ハナハッカ（花薄荷）、マージョラム

学名 *Origanum vulgare*

シソ科の芳香性多年草。属名は「山のよろこび」を意味し、自生する場所と花の魅力を表している。古代ギリシア・ローマでは、新郎新婦の頭を飾る祝言の花であった。7～10月、紫をおびた淡紅色の花が咲く。ピッツアに使われるスパイスでもある。引用は40キダチハッカの項参照。

115 バラ ROSE (省略)

116 ハリエニシダ FURZE, GOSS

英名 Furze, Gorse

和名 ハリエニシダ (針金雀枝)

学名 *Ulex europaeus*

マメ科ハリエニシダ属。エニシダ属に近縁だが、刺の多い夏緑低木である。やせた丘陵や湿地でも、黄色い花がほとんど年中咲く。イギリスではありふれた野の花だが、その美しさに感動した人も少なくはない。日本には明治初年に入った。

Ariel So I charm'd their ears
 That calf-like they my lowing follow'd through
 Tooth'd briers, sharp furzes, pricking goss, and thorns.
 Tempest, 4. 1. 180

エアリアル 耳に魔術をかけてやりますと、
 やつらは、齒を剃く茨や鋭いハリエニシダの茂みを、
 子牛のように私の声について通って来ました。
 『あらし』

原文の furze と goss が異なる植物か、それとも同種異名で文法上は同格なのか、判断に困る。しかし、この行で挙げられているいくつかの植物はすべて茨や刺のある近づきにくい野生のものである。エアリアルはそのような茂みの中を、酔っ払った悪党どもを歩かせて傷だらけにしていじめた。

117 パンジー PANSY (省略)

118 ヒエンソウ LARK'S-HEEL

英名 Larkspur, Rocket Larkspur

和名 ヒエンソウ (飛燕草), チドリソウ (千鳥草)

学名 *Delphinium ajacis* (*Consolida ambigua*)

キンポウゲ科の一年草。イギリスには野生種も多いが、花壇や切り花用として、栽培もさかん。花色は碧紫がふつうだが、青、赤、白、ピンクなどがある。

Song Oxlips in their cradles growing,
 Marigolds on death-beds blowing,

Larks'-heels trim.

The Two Noble Kinsmen, 1. 1. 12

歌 サクラソウは苗床で大きくなり
キンセンカはお墓で咲き
ヒエンソウはかっこよい。

『血縁の二公子』

祝婚歌の一部。「自然の麗しい子どもたち」たる花のいろいろにヒエンソウも含まれている。
英語名は「ヒバリの踵」「ヒバリのケツメ」を意味し、ツバメが飛んでいるような花の形を表した和名のほうが趣がある、といえようか。

119 ピグナッツ PIG-NUT

英名 Pig-nut, Earth-chestnut, Earth-nut

和名 ピグナッツ？

学名 *Conopodium denudatum*

セリ科の双子葉植物。森や草地に生える多年草。地下にはジャガイモに似た根塊を生じ、食用となる。クリの味がするので「地下クリ」とも呼ばれたが、根が深いので掘るのを厭わないのは子どもと豚だったよし。イギリスでは栽培されることはなかった。

Caliban I prithee let me bring thee where crabs grow;

And I with my long nails will dig thee pig-nuts.

The Tempest, 2. 2. 168

キャリバン どうか野生リンゴのなっている所へ案内させてくれ。

この長い爪でピグナッツも掘ってやる。

『あらし』

キャリバンは半人半獣の生きもの。島に上陸した西洋人に酒を飲まされて敬服し、飲んだくれを神ようにあがめ、島のいい所へ案内しようと申し出る。イギリスでは子どもと豚しか関心を示さない野生植物の根を珍味と思っている。酔っ払いの奴隷になると誓って「自由万歳」を叫ぶこの怪物を、西洋人に支配された先住民に見立てる解釈がはやっているが、先住民にはありがた迷惑な話かもしれない。なお、ピグナッツをピーナツ（落花生）とする注釈も多い。

120 ヒース HEATH

英名 Heath, Heather, Ling

和名 ヒース、ギョリュウモドキ（御柳擬）

学名 *Calluna vulgaris*

ツツジ科の耐寒性の強い常緑低木。北ヨーロッパ原産。エリカの近縁で、荒地に群生する。花の基本色は桃紫だが、多種多様の園芸種がある。なお、この植物が生えている荒地もヒースと呼ばれる。

Gonzalo Now would I give a thousand furlongs of sea for an acre of barren ground, long heath, brown furze, any thing.

The Tempest, 1. 1. 66

ゴンザーロー 海はいくらでもくれてやるから、一エーカーでも土地がほしい。のびたヒースや枯れたエニシダ、何が生えていてもいい、どんな荒地でもかまわない。

『あらし』

あらしに翻弄されて沈みそうになった船で、宮廷人ゴンザーローがもらす絶望的な陸地願望である。海の藻屑にはなりたくない。ヒースが生える土地とは農耕に適しない荒地であるが、それでも乾いた陸にはちがいない。

121 ヒナギク DAISY (省略)

122 ヒメウイキョウ CARAWAY

英名 Caraway

和名 ヒメウイキョウ (姫茴香), キャラウエー

学名 *Carum carvi*

セリ科キャラウエー属。ウイキョウの同科別属。二年草で、白い花を咲かせ、その種子 (キャラウエー・シーズ) を香辛料や調味料また薬用にする。

Shallow In an arbor, we will eat a last year's pippin of mine own grafting, with a dish of caraways, and so forth.

2 Henry IV, 5. 3. 3

シャロー 東屋で、私が接ぎ木した去年のピピンリングをご試食願いたのです、ヒメウイキョウの種などでも添えて。

『ヘンリー四世 第二部』

菓子、パンや料理などの香辛料として今日人気の高いヒメウイキョウの種は、シェイクスピアのころはリングの「つまみ」としてもよく利用された。ケンブリッジ大学トリニティ・コレ

ッジなどでは19世紀の末ごろでも、ロースト・アップルに添えられた由。

123 フトイ BULRUSH

英名 Bulrush, Soft-stem Bulrush, Giant Bulrush

和名 フトイ (太藺)

学名 Schoenoplectus lacustris

カヤツリグサ科フトイ属。池など水辺に群生する多年草で、藺草に似ている。現在、ヨーロッパでは河川の土止めや、水質維持のため植栽されている。

Wooer

The place

Was knee-deep where she sat; her careless tresses

A wreath of bulrush rounded.

The Two Noble Kinsmen, 4. 1. 83

求婚者 娘さんがいたその場所は

ひざまで水がつかり、彼女のたれた乱れ髪は

群がるフトイを取り巻いていました。

『血縁の二公子』

恋に狂った獄吏の娘は湖水につかり柳の歌を口ずさむ。色とりどりの水草の花が彼女を囲み、ニンフか虹の女神の風情をかもしだした、と求婚者の話は続く。

124 ブドウ GRAPE, VINE (省略)

125 ブラックベリー BLACKBERRY (省略)

126 ヘボナ HEBONA

古版では、Hebona (Q1, Q2), Hebenon (F1) となっている実体不祥の植物だが、候補に挙げられているのに、Ebony (黒檀), Yew (一位), Henbane (ヒヨス, ナス科の有毒植物) などがある。

Ghost Upon my secure hour thy uncle stole,

With juice of cursed hebona in a vial,

And in the porches of my ears did pour

The leprous distillment.

Hamlet, 1. 5. 62

亡霊 わしの油断に乗じて、おまえの叔父は、
呪われたヘボナの汁をいれた小瓶を持って忍び寄り、
癩病のように肉を腐らすその毒汁をこの耳の穴に注ぎ込んだのだ。

『ハムレット』

シェイクスピアは「ヘボナ」に特定の植物を意図したというよりは、暗黒で有毒のイメージを与える架空の植物名として使用した、という意見に与したい。ヘボナの毒汁は、ハムレット王の肉体を滅ぼしただけでなく、デンマーク王国への害毒、人倫に向けられた毒素として理解されるべきものであろう。篡奪王クロードィアスの野心、欲望の猛毒である。

127 ペルシアグルミ WALNUT

英名 Persian Walnut, English Walnut

和名 クルミ (胡桃), ペルシアグルミ

学名 *Juglans regia*

クルミ科。クルミの代表で、栽培品種も多い。名前のとおりペルシア原産であるが、ヨーロッパでは古代ギリシア・ローマの昔から栽培され、イギリスの風土にもイギリスグルミと呼ばれるほど馴染んでいる。

Petruchio Fie, fie, 'tis lewd and filthy.

Why, 'tis a cockle or a walnut-shell.

The Taming of the Shrew, 4. 3. 66

ペトルーチオ ふざけるな! まったくひどい帽子だ。

まるで貝殻だ、クルミの殻だ。

『じゃじゃ馬ならし』

新妻お気に入りの帽子を罵倒する亭主。しかし、間もなく「ならされた」妻は同じ帽子をかぶって美しくご登場となる。

128 ヘンルーダ RUE, HERB OF GRACE (省略)

129 マツ PINE

英名 Pine, Scotch Pine, Scotch Fir

和名 マツ (松), オウシュウアカマツ (欧州赤松)

学名 *Pinus sylvestris*

マツ科。イギリスに自生する高木。樹形も幹色も日本のアカマツに似ているが、もっと細長

く高くなる。変異した園芸品種も多い。

King Richard But when from under this terrestrial ball

He fires the proud tops of the eastern pines. . . .

Richard II, 3. 2. 42

王 しかしこの丸い大地の下から

太陽が東にそびえ立つ松の梢を赤く染めるとき

『リチャード二世』

高くそびえ立つ松の梢を染める東雲の美しいイメージ。リチャード王はその太陽に自分をなぞらえ、その太陽の下ではいかなる謀反、罪悪も恐れおののくのみと胸を張る。王権神授説に基づく国王の不可侵性を信じるだけで、権力闘争の現実になす術を知らない詩人肌リチャード王の悲劇は、ここでも垣間見ることができる。

130 マルメロ QUINCE

英名 Quince, Marmelo

和名 マルメロ

学名 *Cydonia oblonga*

バラ科の単形属をなす落葉果樹。果実はカリン（ボケ属）と似ていて、栽培地の長野県ではカリンと呼ぶ。ペルシア地方原産だが、古代ギリシア・ローマの昔から栽培された。果実は硬くて生食に適せず、ジャム、ゼリーや果実酒に利用される。愛の女神ヴィーナスに捧げられ、愛の果実とされた。イギリスではかつて、結婚披露宴で出されるパイの材料となった。ジュリエットとパリスの披露宴のために必要とされた果実である。引用は138ヤシの項参照。なお、『夏の夜の夢』では、この名前の大工職人が素人芝居に出る。

131 マヨラナ SWEET MARJOROM

英名 Sweet Marjoram, Garden Marjoram

和名 マヨラナ, マジョラム

学名 *Origanum majorana* (*Majorana hortensis*)

シソ科の芳香がある多年草ハーブ。古代ギリシア・ローマでは神の力が宿った幸福のハーブと信じられて、魔よけに使用され、空気を清めるとされた。寒さに弱く一年草として扱われる。花は白、紫、ピンク色。昔は新鮮な葉を肉料理やサラダに使ったようだが、現在は、乾燥した葉茎や粉末を調味料・薬味として使用する。

Clown Indeed, sir, she was the sweet marjoram of the sallet, or rather the

herb of grace.

All's Well That Ends Well, 4. 5. 16

道化 まったく、あの方はサラダのなかのマヨラナ、いや、むしろ
恵み草のヘンルーダでした。

『終わりよければすべてよし』

名医の遺児ヘレナは苦勞を重ねるが愛をまっとうす。フランス王の命を救い、輕薄高慢な夫を改心させる才覚あるヘレナが、幸福のシンボルであるマヨラナ、恵み草ヘンルーダとされるのはふさわしい。マヨラナにもヘンルーダにも苦みがあるが、これはヘレナの心の強さか、それとも目的達成のために辞さない苦い行為（「ベッドトリック」）に通ずるものか。すべてよし、とされる作品の終わりはややほろ苦いものがある。

132 マンドレーク MANDRAKE, MANDRAGORA

英名 Mandrake

和名 マンドレーク、マンダラゲ（曼陀羅華）

学名 *Mandragora officinarum*

ナス科の多年草。多肉質の根が人体の下半身に似ているうえ、麻薬性の薬効があるので不可思議な毒草とされ、いろんな俗信が生まれた。根を抜くときに金切り声をあげ、この悲鳴を聞くと発狂すると信じられた。鎮静、催眠、催淫薬としても使用された。「恋のリング」「悪魔のリング」の異名もあり、この根をもっていると幸運に恵まれるともいわれた。地中海沿岸原産。日本では一般の栽培は禁じられている。

Juliet And shrieks like mandrakes' torn out of the earth,
That living mortals, hearing them, run mad—

Romeo and Juliet, 4. 3. 47

ジュリエット マンドレークを地中から引き抜くときの悲鳴、
それを聞いた人間は気が狂うというが、そんな悲鳴で…。

『ロミオとジュリエット』

パリスとの結婚を避けるために睡眠薬を飲む少女妻ジュリエットの不安。死んだものとして霊廟に葬られる段取りだが、そこで仮死状態から目覚めるときに見舞われそうないろんな恐怖におののく。マンドレークの悲鳴のような叫びも聞こえるかもしれない。

133 マンネンロウ ROSEMARY (省略)

134 ミチヤナギ KNOT-GRASS

英名 Knot-grass

和名 ミチヤナギ (道柳)

学名 Polygonum aviculare

タデ科の一年草。茎は路傍では伏し、麦畑や草地では直立する、長さ10~40センチの雑草。6~11月ごろ、淡緑色で縁に紅色をおびた花を咲かす。和名は葉形がヤナギに似ることから。

Lysander Get you gone, you dwarf;
 You minimus, of hind'ring knot-grass made;
 You bead, you acorn.

A Midsummer Night's Dream, 3. 2. 329

ライサンダー 消え失せろ、このちび。
 一寸法師、ミチヤナギでも食ったんだろう。
 豆粒、ドングリめ!

『夏の夜の夢』

この道端の雑草は、日本では茎葉を乾燥させ、駆虫剤や利尿剤として用いたが、イギリスではこれを食べると成長が止まるという俗信があった。ライサンダーが口汚くのしる小柄の女性、彼が熱愛し、手に手をとって駆け落ちした可憐なハーミアである。彼女の父親に反対されて、「まことの恋の道がスムーズであったためしはない」と覚悟した恋の道行きだったが、心変わりした男は変われば変わるもの。

135 ミント MINT

英名 Mint

和名 ミント、ハッカ (薄荷)

学名 Mentha (属)

シソ科の多年草。古代エジプトやローマより利用されている、芳香があり、薬用、香料として用途も広いハーブ。代表種は中央ヨーロッパ原産のスペアミント (M.viridis ミドリハッカ) だが、種間雑種のペパーミント (M.piperita セイヨウハッカ) もよく知られる。
引用は40キダチハッカを参照。

136 ムギセンノウ COCKLE

英名 Corn Cockle, Purple Cockle

和名 ムギセンノウ（麦仙翁），ムギナデシコ（麦撫子）

学名 *Agrostemma githago*

ナデシコ科の一年草。麦畑の雑草。種子は麦に有害である。高さ50センチぐらいになり、紫桃赤色の花が咲く。日本では鑑賞用に栽培されるが、園芸品種の花は野生種よりはるかに大きくきれい。

Coriolanus In soothing them we nourish 'gainst our Senate
The cockle of rebellion, insolence, sedition.

Coriolanus, 3. 1. 70

コリオレイナス あいつらを甘やかすことは元老院に対して
反逆，不遜，暴動のムギセンノウを育てるのも同然。

『コリオレイナス』

民衆や護民官をけげらいするローマの貴族コリオレイナス。民衆はたしかに無節操ではあるが、名誉に輝く英雄コリオレイナスの民衆に対する侮蔑はあからさまである。彼にとって、平民の声に耳を傾けることは、ムギセンノウを育て肥沃な麦畑を台なしにするに等しい。彼は平民を「乞食」「野良犬」とも呼んでいる。なお、“cockle”は「麦畑の雑草」一般を意味していたが、次第に「毒麦」などに限定され、シェイクスピアのころには「ムギセンノウ」を表すのがふつうになっていた。

137 モモ PEACH

英名 Peach

和名 モモ（桃）

学名 *Prunus persica*

バラ科サクラ属の落葉果樹。中国原産。ヨーロッパにはペルシアを経由して伝わったようだが（学名は「ペルシアのリンゴ」の意）、イギリスではシェイクスピアの時代にはよく知られていた。

Pompey Then is there here one Master Caper, at the suit of Master Three-
pile the mercer, for some four suits of peach-color'd satin, which now
peaches him a beggar.

Measure for Measure, 4. 3. 11

ポンピー それからはしゃぎやのケイパー氏もいる、極上織物商のスリーパイル氏に訴えられてな。桃色縐子の服四着の件でだそうだが、そうなのは乞食と同じさ。

『尺には尺を』

投獄されたポンピーがブタ小屋の仲間を数え上げているところ。花は美しく、実はおいしいモモも、シェイクスピアは「桃色」として2回、しかもいかにも散文的に言及しているだけである。ジェラードが植栽し、ベーコンも3月に「花咲く桃の木」と挙げているが、シェイクスピアは「春の園紅にほふ桃の花」に陶然とする体験がないのかもしれない。それとも、西洋ではリンゴが東洋のモモの地位を占めているのでその故事や伝承が少ないからか。日本では『古事記』に言及があり、『万葉集』の昔から詠まれてきた。

138 ヤシ PALM

英名 Palm

和名 ヤシ（椰子）

学名 Palmae（科）

ヤシ科には約220属2500種あるといわれるが、シェイクスピアのヤシを特定するならばナツメヤシ（Date Palm, 学名 *Phoenix dactylifera*）である。ナツメヤシは聖書やギリシア神話のヤシである。この木は、新共同訳が出るまで聖書でも、また多くの辞典類で「シュロ」と訳されたりしている。ナツメヤシは、ユダヤで勝利の象徴とされ、ギリシア・ローマでもその伝統が継承されたが、シェイクスピアもこれを受けている。イギリスではナツメヤシは育たないので（ジェラードは何度も試みたが枯死させた）、キリスト教の祭事に使うとき、ヤナギやイチイなどで代用し、これらを「パーム」と呼ぶこともあった。

Cassius A man of such a feeble temper should

So get the start of the majestic world

And bear the palm alone.

Julius Caesar, 1. 2. 131

キャッシュ こんな意気地なしが、

この壮大な世界の先頭に立ち、

勝利の栄冠ヤシを独り占めにするとは。

『ジュリアス・シーザー』

勝利の栄誉に輝くシーザーに我慢ができない野心家キャッシュのやっかみ。「勝利の栄冠...」の原文は文字どおりには「ヤシをひとり占めにする」である。ヤシは勝利のシンボルで、「ヤシを持つ」とは「勝利を得る」という意味を表す成句になっている。なお、ナツメヤシの実（デーツ）がジュリエットの結婚披露宴のごちそうの材料として言及されている。

Nurse They call for dates and quinces in the pastry.

乳母 台所の方ではデーツとマルメロが要と言っています。

『ロミオとジュリエット』

139 ヤナギ WILLOW, OSIER

英名 Willow, Osier

和名 ヤナギ (柳)

学名 Salix (属)

ヤナギ科ヤナギ属の落葉高木または低木。ヤナギ属は種間雑種もできやすく、現在は約3500種あるが、シェイクスピアのヤナギを同定するのは不可能かつ不要。17, 8種ぐらいがイギリス自生種といわれる。水辺に多く、オフィーリア入水の川岸にもヤナギの木が斜めに立っている。ヤナギは悲哀を表すが、それは捕囚のユダヤの女たちがバビロンの川縁のヤナギに豎琴をかけて泣いた故事(「詩篇」137)に基づくといわれる。

Benedick I off'red him my company to a willow-tree, either to make him a garland, as being forsaken, or to bind him up a rod, as being worthy to be whipt.

Much Ado about Nothing, 2. 1. 218

ベネディック ヤナギの木の下までつきあってやろう、ふられた印にヤナギの輪飾りを作ってもいいし、鞭打ちにふさわしいのであれば鞭を作ってもよい、とこう言ってやりました。

『空騒ぎ』

意中の女性にふられたのであれば悲しみのヤナギの輪飾り、愚行をおかしたのであればヤナギの鞭。象徴としてのヤナギと体罰の道具としての双方が語られる。

140 ヤナギハッカ HYSSOP

英名 Hyssop

和名 ヤナギハッカ (柳薄荷), ヒソップ

学名 Hyssopus officinalis

地中海沿岸原産、シソ科常緑の多年草。ミントに似た味と香があり、シェイクスピアの時代には香料や薬用(去痰、健胃、リュウマチ、切り傷、強壮など)として重宝された。

Iago Our bodies are our gardens, to the which our will are gardeners; so

that if we will plant nettles or sow lettuce, set hyssop and weed up tyme,..
why the power and corrigible authority of this lies in our wills.

Othello, 1. 3. 322

イアーゴー 肉体が庭で、意志が庭師だ。だからイラクサを植えようとレタスの
種をまこうと、ヤナギハッカを生やそうと雑草を取り除こうと...きめる力は
おれたちの意志にあるのだ。

『オセロー』

失恋して身投げをしたいと訴える男に与える悪党イアーゴーの忠告。ここだけ読めば、悪党
にも五分の魂かと思いたくなるが、さにあらず。意志の力と合理性を説いてはいるが、バカ男
を生かしておいて利用しようとする魂胆からの救命援助のお説教である。悪党は頭脳明晰、そ
の弁舌はさわやかで説得性がある。

141 ヨウシュトリカブト ACONITUM

英名 Aconite, Monkshood, Wolf's Bane

和名 ヨウシュトリカブト (洋種烏兜)

学名 *Aconitum napellus*

キンポウゲ科の有毒多年草。茎は1メートルになり、青紫色の花を咲かせる。昔からヨーロ
ッパではその毒汁を槍先やヤジリにぬったが、日本種はアイヌが毒矢に用いて有名。猛毒だが、
薬用としても利用される。狂言の題名となっている「附子(ブス)」は猛毒トリカブトである。

King A hoop of gold to bind thy brothers in,
That the united vessel of their blood, ...
Shall never leak, though it do work as strong
As aconitum or rash gunpowder.

2 *Henry IV*, 4. 4. 48

王 兄弟ともに黄金のたがをはめて団結し
骨肉一致の器とすれば...
トリカブトの猛毒や火薬をしかけられても
漏水の恐れはないであろう。

『ヘンリー四世 第二部』

トリカブトが火薬と同列に扱われ、天然古来の劇毒が新しい人工の爆薬と同じようにその破
壊力が示唆されている。文意は、兄弟が一致団結して、そのような破壊力をはねかえせ、とい
うことにある。

142 ヨウラクユリ CROWN IMPERIAL

英名 Crown Imperial

和名 ヨウラクユリ（瓔珞百合）

学名 *Fritillaria imperialis*

ユリ科バイモ属の多年草。小アジアからインドの高地に自生する。茎は直立して約1メートルになるが、その先端に、葉と下向きの花をつける。和名は、黄色やれんが赤色の花が、瓔珞（頭・首・胸・にける珠玉や貴金属の装身具で、仏像などの装飾）に見たてられたもの。花季は4月。

Perdita Bold oxlips, and

The crown imperial; lilies of all kinds.

The Winter's Tale, 4. 4. 126

パーディタ 大胆なサクラ草、それに

ヨウラクユリ、あらゆる種類のユリの花。

『冬物語』

ヨウラクユリがイギリスに導入されたのは1590年代といわれるが、その美しさは「皇帝ユリ」という名称に表れるだけでなく、いち早く詩歌にうたわれた。当時まだ新しく珍しかった、威厳のある「皇帝ユリ」もパーディタの花づくしには入っている。花の乙女パーディタは、色とりどりの花で花環をつくりたい、恋人にも撒いてあげたい、と語る。

143 ヨーロッパグリ CHESTNUT

英名 European Chestnut, Sweet Chestnut

和名 ヨーロッパグリ（栗）

学名 *Castanea sativa* (*C. vulgaris*)

ブナ科の落葉高木。地中海沿岸から広まり、イギリスでは「スペイングリ」とも呼ばれる。果実が古くから焼き栗、菓子材料として利用された。高温多湿の日本では育てにくい。

Petruchio And do you tell me of a woman's tongue,

That gives not half so great a blow to hear

As will a chestnut in a farmer's fire?

The Taming of the Shrew, 1. 2. 209

トルーチオ 女のわめき声なんぞ

農家の暖炉ではぜるクリの音はどでもありますまい。

『じゃじゃ馬ならし』

持参金はたっぷり、器量もよいが、名うての強情なじゃじゃ馬女に立ち向かわんとする強情男。ペトルーチオは、毒には毒をもって制する愛情ある強い男か、それともたんなる男性優位の豚野郎（メール・ショーヴィニスト・ピッグ）か。

144 ヨーロッパシラカンバ BIRCH

英名 Birch, Common Birch, White Birch

和名 ヨーロッパシラカンバ（白樺）、シダレカンバ（枝下樺）

学名 *Betula verrucosa*, (*B. alba*)

カバノキ科の落葉高木。樹肌が白く、枝は細く垂れる優雅な森林樹。古くから各種の木工細工に利用され、イギリスでは初夏の行事の飾りに使われた。

Duke Now, as fond fathers,
Having bound up the threat'ning twigs of birch,
Only to stick it in their children's sight
For terror, not to use, in time the rod
Becomes more mock'd than fear'd.

Measure for Measure, 1. 3. 24

公爵 つまり、甘い父親がシラカンバの枝を束ねて鞭を作り、
子どもに見せつけて怖がらせても、それを用いないのであれば、
やがてその鞭は恐れられるどころか軽蔑の的となる。

『尺には尺を』

シラカンバの用途は広いが、その一つに細い枝を束ねて鞭とする利用法があった。こうして作られた鞭は「樺鞭 (birch rod)」と呼ばれ、家庭でも学校でも必需品とされた。「鞭 (の使用) を惜しむと子供を駄目にする (獅子の子落とし)」という有名な諺は信じられ、実行された。子どもはこれで体罰を受けておとなしくなるから、この木は「おとなしくする木 (peace-maker)」とも呼ばれた。花言葉も「柔順」である。シェイクスピアがこの木に言及するのはこれだけであるが、それは彼が「柔順」にされた幼少時のトラウマ (心に深く残るような衝撃や体験) のせいなのだろうか。後世の詩人が「森林樹の美、森の貴婦人」(コールリジ) とたたえた美しい木である。

145 ヨーロッパヤマナラシ ASPEN

英名 Aspen

和名 ヨーロッパヤマナラシ（山鳴らし）

学名 *Populus tremula*

ヤナギ科の落葉小高木。ポプラと同属。葉は互生し、微風にも揺れ震える。たえず動くこの葉は女の舌の代名詞にもされた。

Marcus O, had the monster seen those lily hands

Tremble like aspen leaves upon a lute. . . .

Titus Andronicus, 2. 4. 45

マーカス ああ、その怪獣でも、おまへの白百合の手が豎琴の上を
ヤマナラシの葉のようにそよぎ震えるのを見ていたら．．．。

『タイタス・アンドロニカス』

白百合の手の持ち主は將軍タイタスの娘ラヴィニア。この美しい令嬢は暴行され、両手と舌を切断されている。その無残な姿を見た伯父マーカスの嘆きである。彼女の「ヤマナラシの葉のようにそよぐ」白い手は、怪獣でも触れることをはばかるような、美しいだけでなく清らかな含羞の手である。中世では、ヤマナラシがキリスト受難の十字架の木とされ、葉が震えるのは罪の慚愧と恐れゆえであるとした伝説もあったが、この伝説もラヴィニアの震えるような手のイメージの背景として意識されていたのだろうか。

146 ライムギ RYE

英名 Rye

和名 ライムギ（ライ麦）、クロムギ（黒麦）

学名 *Secale cereale*

イネ科、コムギと近縁の作物。環境への適応性があり、1世紀には全ヨーロッパに広まった。黒パン、黒ビール、ウィスキーの原料、また飼料として利用されてきた。

Song Between the acres of the rye,

With a hey, and a ho, and a hey nonino,

These pretty country folks would lie.

As You Like It, 5. 3. 22

歌 ライ麦畑のその中で

そら ヘイ、ほら ホ、ヘイ ノニノ

かわいい二人は抱きあいころぶ。

『お気に召すまま』

時は春。鳥歌い、麦畑は緑。巡りくる春にあわせて村の若人たちも青春を謳歌する。天地には豊饒の気が満ち、祝祭のムードが漂う。邪悪が支配する世の中を示すことで始まった『お気に召すまま』が、めでたく愛と調和のしらべで終わろうとする。

147 ラッパズイセン DAFADIL (省略)

148 ラベンダー LAVENDER

英名 Lavender, English Lavender

和名 ラベンダー

学名 *Lavendula vera*

シソ科の香料植物。地中海沿岸原産の多年草ハーブ。7～9月に青紫色の小花が穂状に咲く。ラベンダーの芳香油は香料・薬用としてローマの昔から珍重にされてきた。イギリスには1568年に導入されたとされ、シェイクスピアには一回の言及しかないが、イギリス人が愛好する香草である。

ラベンダーの語源は、その花が古代ローマで浴湯の香料として使われ、英語名は「洗う」という意味のラテン語からきている（学名もそのことを示す）といわれるが、このハーブは「清潔」「新鮮」のイメージが強い。私生児として捨てられた王女は見事に成長して年頃になっているが、そのフレッシュで匂うような無垢な美しさは、中年の男たちに与える彼女の野の花のいろいろなにも投影しているようだ。このハーブはピューリタンが好んだもので、メイフラワー号で新大陸に渡ったピルグリム・ファーザーズが持参したともいわれる。引用は40キダチハッカを参照。

149 ラン LONG PURPLE

英名 Early Purple Orchid

和名 ラン（蘭）（マスカラ）

学名 *Orchis mascula*

イギリスの森や草地に自生するランの一種。開花期は4～6月で、花は紫が多い。花にも葉にも暗紫色の斑点がある。「紫蘭」の訳語がふさわしいところか。俗名も多い。属名は睾丸を意味するギリシア語に由来するが、これは地中の塊根の形から連想したものである。だから、羊飼たちはこれをはしたない名（たくさんある）で呼び、娘たちは「死人の指」と呼ぶ。水死したオフィーリアの花冠にはこのように明らかに「性」（それも男性の）を表す植物があるが、同じ植物が「死」も表した。引用は121ヒナギク参照。

150 リンゴ APPLE

英名 Apple

和名 リンゴ (林檎)

学名 *Malus pumila*, (*Pyrus malus*)

バラ科の落葉高木。4000年以上の栽培歴があり、現在その種は2000以上あるおなじみの果物の木。実は生食のほか、焼いたり、煮たり、パイなどに加工したり用途も広い。リンゴにまつわる神話や伝説も豊富。シェイクスピアにも言及多く、花はばら、実はリンゴというところか。なお、シェイクスピアは Apple-john (アップル・ジョン), Crab (野生リンゴ), Pippin (ピピン) などいくつかの品種も具体的に挙げている。

How like Eve's apple doth thy beauty grow,
If thy sweet virtue answer not thy show!

Sonnets, 93, 13

君の美しさはなんとイヴのリンゴに似ることか
もし君の真実が美貌にそわないのであれば。

『ソネット』

リンゴのもつ象徴は多岐にわたるが、「イヴのリンゴ」はエデンの園で蛇がイヴを誘惑して食べさせた「いかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた」あのリンゴである(『創世記』)。聖書は「園の中央に生えている木」をリンゴと特定はしないが、リンゴはラテン語で *malum* といい、悪を *malus* ということから、人類に原罪をもたらした果実をリンゴとしてきた。見た目にはよくて内実は破壊的な悪である。外観と内実の齟齬・相克はシェイクスピア終生のテーマであるが、万人永遠の問題でもある。『ヴェニスの商人』では、「見かけはきれいが芯は腐っているリンゴ、にせものは外見は立派」とある。

151 レタス LETTUCE

英名 Lettuce, Garden Lettuce

和名 レタス, チシャ (萵苣)

学名 *Lactuca sativa*

キク科の一、二年生葉菜。結球性の玉レタスが多いが、結球しない茎レタス、葉レタスなども含めて植物学的には一種類からなる栽培植物である。乳のような液汁が出るのでラテン語で「乳の草」とよばれ、それが学名に残っている。日本でも古くはチサと呼ばれたがこれは「乳草」の中略とされる。イギリスには古代ローマ人がもたらした。「詩人の詩人」スペンサーは「コールド・レタス」と呼んだが、シェイクスピアもわれわれが食べるようなレタスを食べたようだ。

引用は140ヤナギハッカを参照。

152 レバノンスギ CEDAR (省略)

153 レモン LEMON

英名 Lemon

和名 レモン, (檸檬)

学名 Citrus limon

ミカン科の常緑果樹。インド北東部を原産地とする。ヨーロッパには中世に入った。色も香りもよく、食品に香味を添え、ジュースなどにも利用されるおなじみの果物。引用および説明は98チョウジを参照。

154 ローマカミツレ CAMOMILE

英名 Chamomile, Camomile

和名 ローマカミツレ, カミツレ (加密爾列), カモミール

学名 Anthemis nobilis

キク科の薬用多年草。ヨーロッパ原産で、古代エジプト、ギリシアより薬用植物として知られている。リンゴの香りに似た芳香があるので、ギリシアでは「地面のリンゴ」と呼んでいた。繁殖力も強いハーブ。花もヒナギクに似て、かわいい。

Falstaff Though the camomile, the more it is trodden on, the faster it grows,
yet youth, the more it is wasted, the sooner it wears.

I Henry IV, 2. 4. 400

フォルスタッフ カミツレは踏まれれば踏まれるほどよく育つが、人の青春は
な、浪費すればするほど早く枯れはてる。

『ヘンリー四世 第一部』

カミツレは踏まれるといい香りを発し、衰えることもないので、庭の通路や花壇の縁取りなどに利用される。「踏まれるほどによく育つ」ともいわれた。フォルスタッフは、よく知られていたカミツレの生態を持ち出して、お説教をたれている。当のフォルスタッフはウソ八百の大法螺がばれたばかりで、レスpekタブルな世界の浪費の概念など超越して生きる自由奔放人である。

155 ワレモコウ BURNET

英名 Burnet, Salad Burnet

和名 ワレモコウ (吾木香・我毛香), オランダワレモコウ

学名 *Sanguisorba minor*

バラ科の多年草。ヨーロッパ, アジア西部に自生する。シェイクスピアの時代には栽培して若葉をサラダにしたが(その名残が名称にとどまる), 牧草としての価値が大きい。高さ30~70センチになる。引用および解説は49クローバーを参照。

植物に関する参考書目

- 安部 薫『シェイクスピアの花』八坂書房, 1979
- コーツ, ピーター (Coats, Peter)『花の文化史』安部薫訳 八坂書房, 1978
- ディーズ, L. (Deas, Lizzie)『花精伝説』吉富久夫訳 八坂書房, 1988
- 『園芸植物大事典』塚本洋太郎総監修 6巻 小学館, 1988~1990
- 春山行夫『花ことば—花の象徴とフォークロア』2巻 平凡社, 1986
- 石川林四郎『英文学に現はれたる花の研究』研究社, 1924
- 居初庫太『カラー版 花の歳時記』淡交社, 1981
- 加藤憲市『英米文学植物民俗誌』富山房, 1979
- 加藤さだ『英文学植物考』名古屋大学出版会, 1985
- 金城盛紀『シェイクスピア花苑』世界思想社, 1990
- 熊井明子『シェイクスピアの香り』東京書籍, 1993
- 『世界有用植物事典』堀田満(代表)編 平凡社, 1989
- 澁澤龍彦『フローラ逍遙』平凡社, 1987
- スキナー, チャールズ M. (Skinner, Charles M.)『花の神話と伝説』垂水雄二・福屋正修訳
八坂書房, 1985
- 塚本邦雄『百花遊歴』文芸春秋, 1979
- 塚本洋太郎『私の花美術館』朝日新聞社, 1985
- 若桑みどり『薔薇のイコノロジー』青土社, 1984
- Arber, Agnes. *Herbals: Their Origin and Evolution* (1912), 3rd ed. Cambridge: Cambridge Univ. Press, 1988
- Blamey, Marjorie and Christopher Grey-Wilson. *The Illustrated Flora of Britain and Northern Europe*. London: Hodder & Stoughton, 1989
- D'ancona, Mirella Lvi. *The Garden of the Renaissance: Botanical Symbolism in Italian Painting*. Firenze: Leo S. Olschki Editore, 1977
- de Bray, Lys. *Fantastic Garlands*. Pool, England: Blandford Press, 1982
- Ellacombe, Henry N. *The Plant-lore and Garden-craft of Shakespeare* (1878), 2nd ed. London: W. Satchell and Co., 1884
- Field Guide to the Wild Flowers of Britain*. London: Reader's Digest Association, 1988
- Gerard, John. *The Herball or Generall Historie of Plantes*, 2 parts (1597). Amsterdam: Theatrum Orbis Terrarum, 1974
- Grieve, M. A *Modern Herbal* (1931), ed. C. F. Leyel. Harmondsworth, England: Penguin Books, 1984
- Grigson, Geoffrey. *The Englishman's Flora* (1955). London: Dent, 1987
- Grindon, Leo H. *The Shakespeare Flora* (1883). New York: AMS, 1972
- Kerr, Jessica. *Shakespeare's Flowers*. Harmondsworth, England: Penguin Books, 1975

Parkinson, John. *Paradisi in Sole Paradisus Terresdtris* (1629). Amsterdam: Theatrum Orbis Terrarum, 1975

Rohde, Eleanor Sinclair. *Shakespeare's Wild Flowers*. London: The Medici Society, 1935

Rydén, Mats. *Shakespearean Plant Names*. Stockholm: Almqvist & Wiksell International, 1978

Savage, F. G., *Shakespeare's Flora and Folk-lore*. Stratford-on-Avon: Shakespeare Press, 1923

Singleton, Esther. *The Shakespeare Garden* (1922). Detroit: Gale Research, 1974

Stuart, David and James Sutherland. *Plants From the Past*. Harmondsworth, England: Penguin Books, 1987

Thiselton-Dyer, William T. "Plants," *Shakespeare's England* Vol.1, eds. Sidney Lee and Charles T. Onions (1916). Oxford: Oxford Univ. Press, 1970

Turner William. *A New Herball* (1551), Eds. Chapman, George T. L. and Marilyn N. Tweddle. Ashington, England: Mid Northumberland Arts Group, 1989

Whiteside, Katherine and Mick Hales. *Antiquie Flowers*. London: Conran Octopus, 1988

本稿は神戸女学院大学研究所研究助成金による研究成果の一部である。また、一覧表の準備には神戸女学院大学大学院学生奥本京子、魚住香子両君の協力を得た。記して謝意を表する。

シェイクスピア植物名およびその出典一覧

作品の数字は、The Riverside Shakespeare により、幕・場・行数（ソネットは番号と行数、詩篇は行数）を示す。

原文名	現在の英語名	学名	和名	作品
1 Aconitum	Aconite	Aconitum napellus	ヨウシュトリカブト	「ヘンリー四」 4.4.48
2 (Adonis Flower)	Anemone	Anemone nemorosa	アネモネ	「ヴィーナス」 1168
3 Almond	Almond	Prunus dulcis	アーモンド	「トロイラス」 5.2.193
4 Aloe	Aloe	Aloe	アロエ	「恋人の嘆き」 273
5 Apple	Apple	Malus Pumila	リンゴ	「ソネット」 93.13, 「じゃじゃ馬」 1.1.135, 4.2.101, 4.3.89, 「骨折損」 5.2.475, 「夏の夜」 3.2.104, 「ヴェニス」 1.3.101, 「ヘンリー四」 3.3.4, 「ヘンリー四」 2.4.2, 3, 5, 「ヘンリー五」 3.7.145, 「ハムレット」 4.2.18, 「十二夜」 1.5.158, 5.1.223, 「リア」 1.5.16, 「あらし」 2.1.92, 「ヘンリー八」 5.3.61
6 Apricock	Apricot	Prunus armeniaca	アンズ	「リチャード二」 3.4.29, 「夏の夜」 3.1.166, 「二公子」 2.2.236
7 Ash	Ash	Fraxinus excelsior	セイヨウトネリコ	「コリオレイナス」 4.5.108
8 Aspen	Aspen	Populus tremula	ヨーロッパヤマナラシ	「タイタス」 2.4.45, 「ヘンリー四」 2.4.109
9 Balm	Sweet Balm	Melissa officinalis	セイヨウヤマハッカ	「ヘンリー六」 3.1.17, 4.8.41, 「リチャード三」 1.2.13, 「ヴィーナス」 27, 「ルークリース」 1466, 「リチャード二」 1.1.172, 3.2.55, 4.1.207, 「陽気な女房」 5.5.62, 「ヘンリー四」 2.4.5.114, 「ヘンリー五」 4.1.260, 「トロイラス」 1.1.61, 「リア」 1.1.215, 「マクベス」 2.2.36, 「アントニー」 5.2.311, 「コリオレイナス」 1.6.64, 「タイモン」 5.4.16, 「二公子」 1.4.31, 1.5.4
10 Barley	Barley	Hordeum vulgare	オオムギ	「ヘンリー五」 3.5.19, 「あらし」 4.1.61
11 Bay	Bay	Laurus nobilis	ゲッケイジュ	「リチャード二」 2.4.8, 「ベリクリーズ」 4.6.151, 「ヘンリー八」 4.2.s.d.
12 Bean	Bean	Vicia faba	ソラマメ	「夏の夜」 2.1.45, 「ヘンリー四」 1.2.1.8
13 Bilberry	Bilberry	Vaccinium myrtillus	コケモモ	「陽気な女房」 5.5.45
14 Birch	Birch	Betula alba	ヨーロッパシラカンバ	「尺には尺」 1.3.24, 「二公子」 3.5.111
15 Blackberry	Blackberry	Rubus fruticosus	ブラックベリー	「ヘンリー四」 1.2.4.239, 408, 「トロイラス」 5.4.12
16 Box-tree	Common Box	Buxus sempervirens	ツゲ	「十二夜」 2.5.15
17 Bramble	Blackberry と同じ			「ヴィーナス」 629, 「お気に召す」 3.2.362
18 Broom	Broom	Cytisus scoparius	エニシダ	「あらし」 4.1.66, 「ヘンリー八」 5.3.54
19 Burlush	Burlush	Schoenoplectus lacustris	フトイ	「二公子」 4.1.84
20 Bur(dock)	Burdock	Arctium lappa	ゴボウ (のイガ)	「夏の夜」 3.2.260, 「ヘンリー五」 5.2.52, 「お気に召す」 1.3.13, 17, 「トロイラス」 3.2.111, 「尺には尺」 4.3.179
21 Burnet	Burnet	Sanguisorba minor	ワレモコウ	「ヘンリー五」 5.2.49
22 Cabbage	Cabbage	Brassica oleracea	キャベツ	「陽気な女房」 1.1.121
23 Comomile	Chamomile	Anthemis nobilis	ローマカミツレ	「ヘンリー四」 1.2.4.400
24 Caraway	Caraway	Carum carvi	ヒメウイキョウ (の実)	「ヘンリー四」 2.5.3.3
25 Carot	Carrot	Daucus carota	ニンジン	「陽気な女房」 4.1.53
26 Carnation	Carnation	Dianthus caryophyllus	カーネーション	「骨折損」 3.1.145, 「冬物語」 4.4.82

27	Cedar	Cedar	Cedrus libani	レバノンスギ	「ヘンリー六2」5.1.205, 「ヘンリー六3」5.2.11, 「リチャード三」1.3.263, 「ヴィーナス」858, 「ルークリース」664,665, 「タイタス」4.3.46, 「骨折損」4.3.87, 「コロオレイナス」5.3.60, 「シンベリン」5.4.140, 5.5.438,453,457, 「あらし」5.1.48, 「ヘンリー八」5.4.53, 「二公子」2.6.4
28	Cherry	Cherry	Prunus avium	セイヨウミザクラ(の実)	「リチャード三」1.1.94, 「ヴィーナス」1103, 「間違い」4.3.73, 「ジョン」2.1.162, 「夏の夜」3.2.140,209, 5.1.190,331, 「ベリクリーズ」5, ch, 8, 「ヘンリー八」5.1.169, 「二公子」1.1.178, 4.1.74
29	Chestnut	Chestnut	Castanea vulgaris	ヨーロッパグリ	「じゃじゃ馬」1.2.209, 「お気に召す」3.4.11, 「マクベス」1.3.4, 「二公子」5.2.61
30	Clove	Clove	Syzygium aromaticum	チョウジ	「骨折損」5.2.648
31	Clover	Clover	Trifolium	クローバー	「ヘンリー五」5.2.49
32	Cockle	Corn Cockle	Agrostemma githago	ムギセンノウ	「骨折損」4.3.380, 「コロオレイナス」3.1.70
33	Coloquintida	Colocynthis	Citrullus colocynthis	コロンソウ	「オセロ」1.3.349
34	Columbine	Columbine	Aquilegia vulgaris	セイヨウオダマキ	「骨折損」5.2.655, 「ハムレット」4.5.181
35	Cowslip	Cowslip	Primula veris	キバナノクリソウ	「夏の夜」2.1.10,15, 5.1.332, 「ヘンリー五」5.2.49, 「シンベリン」1.5.83, 2.2.39, 「あらし」5.1.89
36	Crab	Crab Apple	Malus baccata	野生リンゴ	「ヘンリー六2」3.2.214, 「じゃじゃ馬」2.1.229,230, 「骨折損」4.2.6, 5.2.925, 「夏の夜」2.1.48, 「リア」1.5.15,18, 19, 「コロオレイナス」2.1.188, 「あらし」2.2.167, 「ヘンリー八」5.3.8
37	Crow-flower	Buttercup	Ranunculus acris	キンボウゲ	「ハムレット」4.7.169
38	Crown Imperial	Crown Imperial	Fritillaria imperialis	ヨウラクユリ	「冬物語」4.4.126
39	Cuckoo-bud	Buttercup と同じ?			「骨折損」5.2.896
40	Cuckoo-Flower	Cockoo-Bud と同じ?			「リア」4.4.4
41	Cupid's Flower	Pansy と同じ			「夏の夜」4.1.73
42	(Currant	Currant	Vitis	干しブドウ	「冬物語」4.3.38)
43	Currant	Red Currant	Ribes rubrum	アカスグリ	「二公子」1.1.216
44	Cypres	Cypes	Cupressus sempervirens	イトスギ	「ヘンリー六2」3.2.323, 「じゃじゃ馬」2.1.351, 「十二夜」2.4.52, 3.1.121, 「コロオレイナス」1.10.30, 「冬物語」4.4.219
45	Daffadil	Daffodil	Narcissus pseudonarcissus	ラッパズイセン	「冬物語」4.3.1, 4.4.118, 「二公子」4.1.73
46	Daisy	Daisy	Bellis perennis	ヒナギク	「ルークリース」395, 「骨折損」5.2.894, 「ハムレット」4.5.184, 4.7.169, 「シンベリン」4.2.398, 「二公子」1.1.5
47	Damson	Damson	Prunus insititia	インシチアスモモ	「ヘンリー六2」2.1.100
48	Darnel	Darnel	Lolium temulentum	ドクムギ	「ヘンリー六1」3.2.44, 「ヘンリー五」5.2.45, 「リア」4.4.5
49	Date	Date	Phoenix dactylifera	ナツメヤシ (の実)	「ロミオ」4.4.2, 「トロイラス」1.2.257, 「終わり」1.1.159, 「冬物語」4.3.46
50	Dewberry	Dewberry	Rubus caesius	デューベリー	「夏の夜」3.1.166
51	Dian's Bud	Chaste Tree	Vitex agnus-castus?	イタリアニンジンボク	「夏の夜」4.1.73
		Common Wormwood	Artemisia absinthium?	アブシント	
52	Dock	Dock	Rumex	ギンギシ	「ヘンリー五」5.2.52, 「あらし」2.1.145
53	Ebony	Ebony	Diospyros ebenum	コクタン	「ヴィーナス」948, 「骨折損」1.1.243, 4.3.243, 244, 「ヘンリー四2」5.5.37, 「十二夜」4.2.38
54	Eglantine	Eglantine	Rosa eglanteria	エグランタイン	「夏の夜」2.1.252, 「シンベリン」4.2.223

55	Elder	Elder	Sambucus nigra	セイヨウニワトコ	「タイタス」2.3.272, 277, 「骨折損」5.2.606, 「陽気な女房」2.3.29, 「ヘンリー五」4.1.198, 「シンペリン」4.2.59
56	Elm	English Elm	Ulmus procera	オウシュウニレ	「間違い」2.2.174, 「夏の夢」4.1.44, 「ヘンリー四」2.4.331
57	Eringo	Sea Holly	Eryngium maritimum	エリンギウム	「陽気な女房」5.5.20
58	Femetary	Fumitory	Fumaria	カラクサケマン	「ヘンリー五」5.2.45
59	Femiter	Femetary と同じ			「リア」4.4.3
60	Fennel	Fennel	Foeniculum vulgare	ウイキョウ	「ロミオ」1.2.29, 「ヘンリー四」2.4.245, 「ハムレット」4.5.180
61	Fern	Fern	Pteridophyta	シダ	「ヘンリー四」1.2.1.87, 89
62	Fetch	Common Vetch	Vicia sativa	オオカラスノエンドウ	「あらし」4.1.61
63	Fig	Fig	Ficus carica	イチジク	「ヘンリー六」2.3.67, 「ジョン」2.1.162, 「夏の夢」3.1.167, 「陽気な女房」1.3.30, 「ヘンリー四」2.5.3.118, 「ヘンリー五」3.6.57, 59, 4.1.60, 「オセロ」1.3.319, 「アントニー」1.2.32, 5.2.235, 339, 351
64	Filbert	Hazel	Corylus avellana	セイヨウハシバミ	「あらし」2.2.171
65	Flag	Iris? Burlush? Rush? と同じ			「アントニー」1.4.45
66	Flax	Flax	Linum usitatissimum	アマ	「ヘンリー六」2.5.2.55, 「陽気な女房」5.5.151, 「ハムレット」4.5.196, 「十二夜」1.3.102, 「リア」3.7.106, 「冬物語」1.2.277, 「二公子」5.3.98
67	Flower-de-luce	Yellow Iris	Iris pseudacorus	キショウブ	「ヘンリー六」1.1.1.80, 1.2.99, 「ヘンリー六」2.5.1.11, 「ヘンリー五」5.2.210, 「冬物語」4.4.127
68	Furze	Furze, Gorse	Ulex europaeus	ハリエニシダ	「あらし」1.1.66, 4.1.180
69	Garlic	Garlic	Allium sativum	ニンニク	「夏の夜」4.2.43, 「ヘンリー四」1.3.1.160, 「尺には尺」3.2.184, 「コリオレイナス」4.6.98, 「冬物語」4.4.162
70	Gillyvor	カーネーションと同じ(変種)			「冬物語」4.4.82, 4.4.98
71	Ginger	Ginger	Zingiber officinale	ショウガ	「二紳士」1.2.70, 「骨折損」5.1.72, 「ヴェニス」3.1.9, 「ヘンリー四」1.2.1.25, 3.1.255, 「ヘンリー五」3.7.20, 「十二夜」2.3.117, 「尺には尺」4.3.5, 7, 「冬物語」4.3.47
72	Gooseberry	Gooseberry	Ribes grossularia	セイヨウスグリ	「ヘンリー四」2.1.2.173
73	Goss	Furze と同じ			「あらし」4.1.180
74	Grape	Grape	Vitis	ブドウ	「ヴィーナス」601, 「ルークリース」215, 「夏の夜」3.1.167, 「お気に召す」5.1.34, 35, 「終わり」2.1.70, 71, 2.3.99, 「尺には尺」2.1.129, 「オセロ」2.1.252, 「アントニー」2.7.116, 5.2.282, 「コリオレイナス」5.4.18, 「タイモン」4.3.429, 「二公子」4.2.96
75	Hardock	Burdock と同じ			「リア」4.4.4
76	Harebell	Bluebell	Scilla non-scripta	スキラ ノースクリプタ	「シンペリン」4.2.222
77	Hawthorn	May(-tree)	Crataegus monogyna	セイヨウサンザシ	「ヘンリー六」3.2.5.42, 「夏の夜」1.1.185, 3.1.4, 「陽気な女房」3.3.71, 「お気に召す」3.2.361, 「リア」3.4.47, 98, 「二公子」3.1.82
78	Hazel	Filbert と同じ			「じゃじゃ馬」2.1.253, 255, 「ロミオ」1.4.59, 3.1.20
79	Heath	Heather	Calluna vulgaris	ヒース	「マクベス」1.1.6, 1.3.77, 「あらし」1.1.66
80	Hebona	Ebony と同じ?			「ハムレット」1.5.62
81	Hemlock	Hemlock	Conium maculatum	ドクニンジン	「ヘンリー五」5.2.45, 「リア」4.4.4, 「マクベス」4.1.25

82	Hemp	Hemp	Cannabis sativa	アサ	「ヘンリー六2」4.7.90, 「夏の夜」3.1.77, 「ヘンリー四2」2.1.58, 「ヘンリー五」3. pr. 8, 3.6.43
83	Herb of grace	Rueと同じ			「リチャード二」3.4.105, 「ハムレット」4.5.182, 「終わり」4.5.17, 「アントニー」4.2.38
84	Holly	Holly	Ilex aquifolium	セイヨウヒイラギ	「お気に召す」2.7.180,182
85	Holy-thistle	Blessed Thistle	Cnicus benedictus	サントリソウ	「空騒ぎ」3.4.80
86	Honey-stalk	Cloverと同じ			「タイタス」4.4.91
87	Honeysuckle	Honeysuckle	Lonicera periclymenum	リオイニドウ	「夏の夜」2.1.251, 4.1.42, 「ヘンリー四2」2.1.50, 「空騒ぎ」3.1.8,30
88	Hyssop	Hyssop	Hyssopus officinalis	ヤナギハッカ	「オセロ」1.3.322
89	Ivy	Ivy	Hedera helix	セイヨウキズタ	「間違い」2.2.178, 「夏の夜」4.1.43, 「冬物語」3.3.68, 「あらし」1.2.86, 「二公子」4.2.104
90	Knot-grass	Knot-grass	Polygonum aviculare	ミチヤナギ	「夏の夜」3.2.329
91	Lady-smock	Lady's smock	Cardamine pratensis	ハナタネツケバナ	「骨折損」5.2.895
92	Lark's-heel	Larkspur	Delphinium ajacis	ヒエンソウ	「二公子」1.1.12
93	Laurel	Bayと同じ			「ヘンリー六3」4.6.34, 「タイタス」1.1.74, 「トロイラス」1.3.107, 「アントニー」1.3.100
94	Lavender	Lavender	Lavendula vera	ラベンダー	「冬物語」4.4.104
95	Leek	Leek	Allium porrum	ニラネギ	「夏の夜」5.1.335, 「ヘンリー五」4.1.54,4.7.99,99,103, 5.1.2,10,21,24,37, 38,41,47,50,56,58,62
96	Lemon	Lemon	Citrus limon	レモン	「骨折損」5.2.647
97	Lettus	Lettus	Lactuca sativa	レタス	「オセロ」1.3.322
98	Lily	Lily	Lilium candidum	ニワシロユリ	「ヴィーナス」228,362,1053, 「ソネット」94.14,98.9,99.6, 「ルクリース」71,386,478, 「タイタス」2.4.44, 3.1.113, 「二紳士」2.3.20, 4.4.155, 「骨折損」5.2.352, 「ジョン」3.1.53, 4.2.11, 「夏の夜」3.1.93, 5.1.330, 「トロイラス」3.2.12, 「リア」2.2.17, 「マクベス」5.3.15, 「シンベリン」2.2.15, 4.2.201, 「冬物語」4.4.126, 「ヘンリー八」3.1.151, 5.4.61
99	Line	Lime	Tilia vulgaris	セイヨウシナノキ	「あらし」4.1.193,235, 5.1.10
100	Locust	Locust	Ceratonia siliqua	イナゴマメ	「オセロ」1.3.348
101	Long Purple Orchid	Early Purple Orchid	Orchis muscula	ラン(マスカラ)	「ハムレット」4.7.169
102	Love-in-idleness	Pansyと同じ			「じゃじゃ馬」11.1.151, 「夏の夜」2.1.168
103	Mallow	Common Mallow	Malva sylvestris	ウスベニアオイ	「あらし」2.1.145
104	Mandragora	Mandrakeと同じ			「オセロ」3.3.330, 「アントニー」1.5.4
105	Mandrake	Mandrake	Mandragora officinarum	マンドレーク	「ヘンリー六2」3.2.310, 「ロミオ」4.3.47, 「ヘンリー四2」1.2.14, 3.2.315
106	Marigold	Marigold	Calendula officinalis	キンセンカ	「ソネット」25.6, 「ルクリース」397, 「ベリクリース」4.1.15, 「シンベリン」2.3.24, 「冬物語」4.4.105, 「二公子」1.1.11
107	Marjorum	Common Marjoram	Origanum vulgare	ハナハッカ	「ソネット」99.7, 「終わり」4.5.16, 「リア」4.6.93, 「冬物語」4.4.104
108	Medlar	Medlar	Mespilus germanica	セイヨウカリン	「ロミオ」2.1.34,36, 「お気に召す」3.2.118, 120, 「尺には尺」4.3.174, 「タイモン」4.3.304,307
109	Mint	Mint	Mentha	ミント	「骨折損」5.2.655, 「冬物語」4.4.104
110	Mistletoe	Mistletoe	Viscum album	オウシュウヤドリギ	「タイタス」2.3.95
111	Moss	Moss	Musci(類)	コケ	「間違い」2.2.178, 「タイタス」2.3.95, 「ヘンリー四1」3.1.32, 「お気に召す」4.3.104, 「シンベリン」4.2.228

112	Mulberry	Black Mulberry	Morus nigra	クワ	「夏の夜」 3.1.167, 5.1.148, 「ヴィーナス」 1103, 「コリオレイナス」 3.2.79, 「二公子」 4.1.68
113	Mushrump	Mushroom	Agaricus	キノコ	「あらし」 5.1.39
114	Mustard	Black Mustard	Brassica nigra	クロガラシ	「じゃじゃ馬」 4.3.23, 25, 26, 27, 30, 「夏の夜」 3.1.162, 190, 191, 196, 4.1.17, 19, 「ヘンリー四」 2.4.241, 「お気に召す」 1.2.65, 66, 80
115	Myrtle	Myrtle	Myrtus communis	ギンバイカ	「情熱」 11.2.19, 12, 20, 4, 「ヴーナス」 865, 「尺には尺」 2.2.117, 「アントニー」 3.12.9
116	Narcissus	Narcissus	Narcissus poeticus	クチベニスイセン	「二公子」 2.2.129
117	Nettle	Nettle	Urtica	イラクサ	「タイタス」 2.3.272, 「リチャード二」 3.2.18, 「ヘンリー四」 1.2.3.9, 「ヘンリー五」 1.1.60, 「ハムレット」 4.7.169, 「トロイラス」 1.2.176, 「オセロ」 1.3.322, 「リア」 4.4.4, 「コリオレイナス」 2.1.190, 「冬物語」 1.2.329, 「あらし」 2.1.145, 「二公子」 3.5.57, 5.1.97
118	Nutmeg	Nutmeg	Myristica officinalis	ニクズク	「骨折損」 5.2.646, 「ヘンリー五」 3.7.19, 「冬物語」 4.3.46
119	Oak	Oak	Quercus robur	オーク	「ヘンリー六」 3.2.1.55, 「ルークリース」 950, 「骨折損」 4.2.108, 「夏の夜」 1.2.110, 「陽気な女房」 4.4.31, 40, 42, 4.6.19, 5.1.11, 5.3.14, 23, 24, 5.5.75, 「シーザー」 1.3.6, 「空騒ぎ」 2.1.240, 「お気に召す」 2.1.31, 4.3.104, 「トロイラス」 1.3.50, 「尺には尺」 2.2.116, 「オセロ」 2.1.8, 3.3.210, 「リア」 3.2.5, 「コリオレイナス」 1.1.181, 1.3.15, 2.1.125, 2.2.98, 5.2.111, 5.3.153, 「タイモン」 4.3.264, 419, 「シンペリン」 4.2.267, 「冬物語」 2.3.91, 「あらし」 1.2.294, 5.1.45, 「二公子」 4.2.137,
120	Oat	Oat	Avena sativa	オートムギ	「じゃじゃ馬」 3.2.205, 「夏の夜」 4.1.32, 「ヘンリー四」 1.2.1.13, 「リア」 5.3.38, 「あらし」 4.1.61, 「二公子」 5.2.65
121	Olive	Olive	Olea europaea	オリーブ	「ヘンリー六」 3.4.6.34, 「ソネット」 107.8, 「ヘンリー四」 2.4.4.87, 「お気に召す」 3.5.75, 4.3.77, 「十二夜」 1.5.210, 「アントニー」 4.6.6, 「タイモン」 5.4.82
122	Onion	Onion	Allium cepa	タマネギ	「じゃじゃ馬」 In. 1.126, 「夏の夜」 4.2.42, 「終わり」 5.3.320, 「アントニー」 1.2.169, 4.2.35
123	Orange	Orange	Citrus sinensis	オレンジ	「夏の夜」 1.2.94, 3.1.126, 「空騒ぎ」 2.1.294, 4.1.32, 「コリオレイナス」 2.1.70
124	Osier	Willow と同じ			「骨折損」 4.2.108, 「ロミオ」 2.3.7, 「お気に召す」 4.3.79
125	Oxlip	Oxlip	Primula elatior	セイタカセイヨウサクラソウ	「二公子」 1.1.10, 「夏の夜」 2.1.250, 「冬物語」 4.4.125
126	Palm	Palm	Palmae (科)	ヤシ	「シーザー」 1.2.131, 「お気に召す」 3.2.175, 「ハムレット」 5.2.40, 「コリオレイナス」 5.3.117, 「タイモン」 5.1.10
127	Pansy	Pansy	Viola tricolor	パンジー	「ハムレット」 4.5.176
128	Parsley	Parsley	Petroselinum crispum	パセリ	「じゃじゃ馬」 4.4.101
129	Pea	Pea	Pisum sativum	エンドウ	「骨折損」 5.2.315, 「夏の夜」 3.1.162, 185, 188, 4.1.7, 38, 「ヘンリー四」 1.2.1.8, 「あらし」 4.1.61
130	Peach	Peach	Prunus persica	モモ	「ヘンリー四」 2.2.16, 「尺には尺」 4.3.11
131	Pear	Pear	Pyrus communis	セイヨウナシ	「ロミオ」 2.1.38, 「陽気な女房」 4.5.100, 「終わり」 1.1.161, 162, 163
132	Pepper	Black Pepper	Piper nigrum	コショウ	「ロミオ」 3.1.99, 「ヘンリー四」 1.2.4.191, 3.1.255, 3.3.8, 5.3.36, 「陽気な女房」 3.5.147, 「十二夜」 3.4.144

133	Pig-nut	Pig-nut	Conopodium denudatum	ビグナツツ	「あらし」2.2.168
134	Pine	Pine	Pinus sylvestris	マツ	「ヘンリー六2」2.3.45, 「ルークリース」1167, 「リチャード二」3.2.42, 「ヴェニス」4.1.75, 「トロイラス」1.3.8, 「アントニー」4.12.1,23, 「シンベリン」4.2.175, 「冬物語」2.1.34, 「あらし」1.2.277,293, 5.1.48
135	Pink	Pink	Dianthus plumarius	ナデシコ	「ロミオ」2.4.57,58, 「二公子」1.1.4
136	Plane	Oriental Plane	Platanus orientalis	スズカケノキ	「二公子」2.6.5
137	Plantain	Plantain	Plantago major	オニオオバコ	「骨折損」3.1.73,74,108, 「ロミオ」1.2.51
138	Plum	Plum	Prunus domestica	セイヨウスモモ	「ヘンリー六2」2.1.95,99, 「ヴィーナス」527, 「ジョン」2.1.162, 「ハムレット」2.2.198, 「二公子」2.3.72, 3.5.5
139	Pomegranate	Pomegranate	Punica granatum	ザクロ	「ロミオ」3.5.4, 「ヘンリー四1」2.4.38, 「終わり」2.3.259
140	Poppy	Opium Poppy	Papaver somniferum	ケシ	「オセロ」3.3.330
141	Potato	Sweet Potato	Ipomoea batatas	サツマイモ	「陽気な女房」5.5.19, 「トロイラス」5.2.56
142	Primrose	Primrose	Primula vulgaris	イチゲサクラソウ	「ヘンリー六2」3.2.63, 「ヴィーナス」151, 「夏の夜」1.1.215, 「ハムレット」1.3.50, 「マクベス」2.3.19, 「シンベリン」1.5.83, 4.2.221, 「冬物語」4.4.122, 「二公子」1.1.7
143	Pumpkin	Pumpkin	Cucurbita maxima	セイヨウカボチャ	「陽気な女房」3.3.41
144	Quince	Quince	Cydonia Oblonga	マルメロ	「ロミオ」4.4.2
145	Radish	Radish	Raphanus sativus	ダイコン	「ヘンリー四1」2.4.186, 「ヘンリー四2」3.2.311
146	Reed	Reed	Phragmites communis	アシ	「ルークリース」1437, 「ヘンリー四1」1.3.105, 「アントニー」2.7.12, 「シンベリン」4.2.267, 「あらし」1.2.213, 5.1.17, 「二公子」4.1.54,61
147	Rhubarb	Rhubarb	Rheum palmatum	ダイオウ	「マクベス」5.3.55
148	Rice	Rice	Oryza sativa	コメ	「冬物語」4.3.38,39
149	Rose	Rose	Rosa	バラ	「ヘンリー六1」2.3.30,33,36,37,41,48, 50,58,61,62,66,68,69,72,107,123,126, 4.1.91,152, 「ヘンリー六2」1.1.254, 「ヘンリー六3」1.2.33,2.5.97,101, 「リチャード三」4.3.12, 5.5.19, 「ヴィーナス」3, 10, 110, 574, 590, 936, 「ソネット」1.2.35.2, 54.3,6,11, 67.8, 95.2, 98.10, 99.8, 109.14, 116.9, 130.5,6, 「ルークリース」71,258,259,386,479,492 「じゃじゃ馬」In. 1.56, 2.1.173, 「ヴェローナ」4.4.154, 「骨折損」1.1.105, 4.3.26, 5.2. 293,295,297, 「ジョン」1.1.142, 3.1.54, 「リチャード二」5.1.8, 「ロミオ」2.2.43, 4.1.99, 5.1.47, 「夏の夜」1.1.76,129, 2.1.108,252, 2.2.3, 3.1.94, 4.1.3, 「ヘンリー四1」1.3.175, 「陽気な女房」3.1.19, 「ヘンリー四2」2.4.25, 「空騒ぎ」1.3.28, 「お気に召す」3.2.111, 「ハムレット」3.1.152, 3.2.277, 3.4.42, 4.5.158, 「十二夜」2.4.38, 3.1.149, 「終わり」1.3.130, 4.2.18, 「オセロ」4.2.63, 5.2.13, 「アントニー」3.13.20,39, 「タイモン」4.3.87, 「ベリクリース」4.6.35, 5, Ch. 7, 「シンベリン」2.5.11, 5.5.121, 「冬物語」4.4.220, 「二公子」1.1.1, 2.2.136, 4.1.74, 5.1.96,165
150	Rosemary	Rosemary	Rosmarinus officinalis	マンネンロウ	「ロミオ」2.4.206,212, 4.5.79, 「ハムレット」4.5.175, 「リア」2.3.16, 「ベリクリース」4.6.151, 「冬物語」4.4.74
151	Rue	Rue	Ruta graveolens	ヘンルーダ	「リチャード二」3.4.105,106, 「ハムレット」4.5.181,183, 「冬物語」4.4.74

152	Rush	Rush	Juncus effusus	イグサ	「間違い」4.3.72, 「ルークリース」318, 「じゃじゃ馬」4.1.46, 4.5.14, 「ジョン」4.3.129, 「ロミオ」1.4.36, 「夏の夜」2.1.84, 「ヘンリー四」3.1.211, 「ヘンリー四」5.5.1, 「お気に召す」3.2.371, 3.5.22, 「終わり」2.2.23, 「オセロ」5.2.270, 「アントニー」3.5.17, 「コレオレイナス」1.1.181, 1.4.18, 「シンペリン」2.2.13, 「二公子」4.1.61, 89
153	Rye	Rye	Secale cereale	ライムギ	「お気に召す」5.3.22, 「あらし」4.1.61, 136
154	Saffron	Saffron Crocus	Crocus sativus	サフラン	「間違い」4.4.61, 「終わり」4.5.2, 「冬物語」4.3.45, 「あらし」4.1.78
155	Sampire	Samphire	Crithmum maritimum	クリスмум	「リア」4.6.15
156	Savory	Savory	Satureja hortensis	キダチハッカ	「冬物語」4.4.104
157	Sedge	Sedge	Carex	スゲ	「じゃじゃ馬」ln. 2.51, 53, 「二紳士」2.7.29, 「ヘンリー四」1.3.98, 「空騒ぎ」2.1.203, 「あらし」4.1.129, 「二公子」4.1.54
158	Senna	Senna	Cassia senna	センナ	「マクベス」5.3.55,
159	Speargrass	Couch-grass	Agropyron repens	シバムギ	「ヘンリー四」2.4.309
160	Strawberry	Strawberry	Fragaria vesca	エゾノヘビイチゴ	「リチャード三」3.4.32, 47, 「ヘンリー五」1.1.60, 「オセロ」3.3.435
161	Sweet Marjorom	Sweet Marjoram	Origanum marjorana	マヨナラ	「終わり」4.5.16, 「リア」4.6.93
162	Sycamore	Sycamore	Acer pseudoplatanus	セイヨウカジカエデ	「骨折損」5.2.89, 「ロミオ」1.1.121, 「オセロ」4.3.40
163	Thistle	Thistle	Cirsium	アザミ	「夏の夜」4.1.12, 「空騒ぎ」3.4.76, 80, 「ヘンリー五」5.2.52
164	Thyme	Wild Thyme	Thymus serpyllum	タイム	「夏の夜」2.1.249, 「オセロ」1.3.322, 「二公子」1.1.6
165	Toadstool	Mushrump と同じ			「トロイラス」2.1.21
166	Turnip	Turnip	Brassica rapa	カブ	「陽気な女房」3.4.87
167	Vine	Vine	Grape と同じ		「ヘンリー六」2.5.11, 「リチャード三」5.2.8, 「間違い」2.2.174, 「ルークリース」215, 「ヘンリー五」3.5.4, 5.2.41, 54, 「尺には尺」4.1.29, 30, 33, 「リア」1.1.84, 「アントニー」2.7.113, 「タイモン」4.3.193, 「シンペリン」4.2.60, 「あらし」2.1.153, 4.1.68, 112, 「ヘンリー八」5.4.34, 49, 「二公子」2.2.43
168	Violet	Sweet Violet	Viola odorata	ニオイスマイレ	「ヴィーナス」125, 936, 「ソネット」12.3, 99.1, 「骨折損」5.2.894, 「ジョン」4.2.12, 「リチャード二」5.2.46, 「夏の夜」2.1.250, 「ヘンリー五」4.1.102, 「ハムレット」1.3.7, 4.5.184, 5.1.240, 「十二夜」1.1.6, 「尺には尺」2.2.165, 「ベリクリーズ」4.1.15, 「シンペリン」1.5.83, 4.2.172, 「冬物語」4.4.120
169	Walnut	Persian Walnut	Juglans regia	ベルシアグルミ	「じゃじゃ馬」4.3.66, 「陽気な女房」4.2.164
170	Wheat	Wheat	Triticum aestivum	コムギ	「夏の夜」1.1.185, 「ヴェニス」1.1.116, 「ヘンリー四」5.1.15, 16, 「ハムレット」5.2.41, 「トロイラス」1.1.15, 「リア」3.4.118, 「アントニー」2.6.37, 「あらし」4.1.61, 「二公子」1.1.64, 5.1.160
171	Willow	Willow	Salix	ヤナギ	「ヘンリー六」3.3.228, 4.1.100, 「ヴェニス」5.1.10, 「空騒ぎ」2.1.187, 218, 「ハムレット」4.7.166, 「十二夜」1.5.268, 「オセロ」4.3.28, 41, 43, 45, 47, 49, 51, 56, 5.2.248, 「二公子」4.1.80
172	Woodbine	Honeysuckle と同じ			「夏の夜」2.1.251, 4.1.42, 「空騒ぎ」3.1.30

173	Woodbine	Bindweed	<i>Convolvulus arvensis</i>	セイヨウヒルガオ	「夏の夜」4.1.42
174	Wormwood	Common Wormwood	<i>Artemisia absinthium</i>	ニガヨモギ	「ルークリース」893, 「骨折損」5.2.847, 「ロミオ」1.3.26, 30, 「ハムレット」3.2.181
175	Yew	Common Yew	<i>Taxus baccata</i>	セイヨウイチイ	「タイタス」2.3.107, 「リチャード二」3.2.117, 「ロミオ」5.3.3, 137, 「十二夜」2.4.55, 「マクベス」4.1.27

注 シェイクスピアが同じ植物を異なった名称で扱う場合には（例えば Bay と Laurel）、両方を見出しに使った。したがって、この表の植物名の総数は植物の総数よりも多い。

（原稿受理1994年12月2日）